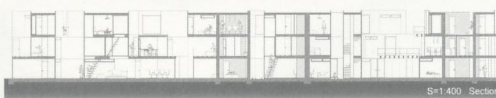
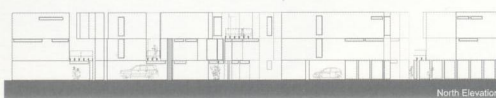
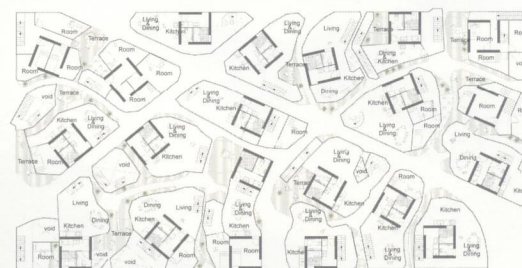
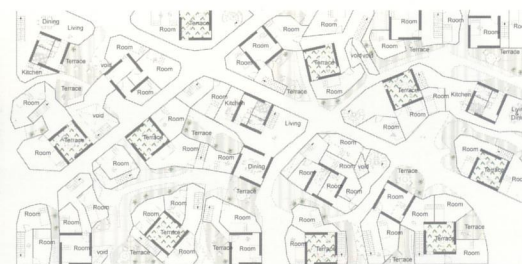


ジュウニトイロのロジモヨウ

岡本篤佳 (おかもとあつよし)

千葉大学 工学部都市環境システム学科



……最近お隣さんといつお話ししましたか？

都心に新たな住民が流入してきている今、希薄になっている既存周辺住民とのコミュニケーション。近年ではコミュニティの場は距離や時間や周辺の人々に依存しなくなっており、近隣住民への興味関心が薄れている。しかしそれでは周囲の人々への不信感は募り、衝突することもしばしばである。そこで私は「せまさは交流を促す」をテーマに、新規住民と既存住民とが出会い触れ合う機会や空間を計画し、居住空間にコミュニケーションを誘発する環境を創出する。

【講評】 東京都中央区佃は下町の路地空間の残る数少ない地域でもある。この計画は、近年の人口の都心回帰の現象で生じる新旧住民のコミュニティの交流を促すため、旧来の路地空間の緊密性に着目し、「狭さ」の三つレベルを抽出して、再構成することで、お互いに挨拶を交わし合う関係からコミュニティの発展をめざす実験的ともいえる居住環境の提案である。また、これらの路地で切り抜かれた住戸の外観は多様で個性的なファサードを創出し、住戸空間では、上階で隣接する住戸が交錯し、開口面のずれでプライバシーを保ちつつ、互いのテラスの緑を楽しむことができる程良い距離感が計画されている。「狭さ」を逆手にとった緻密な計画手法は、明解であり概念的には成功している。ただ、生物の有する個体間距離の視点も重要であり、快適性をも含めた更なる探求が課題となろう。
【審査員：星野 治】